

# 被災者支援で平和を

## 賀川豊彦顕彰シンポ

野田正彰・関学大教授ら神戸で語る

関東大震災（1923年）直後に被災者の救護活動を行うなど、日本におけるボランティア活動の先駆者として知られる賀川豊彦（1888～1960年）の業績を振り返り、

どが企画した。

関西学院大の野田正

彰教授（精神医学）は、

今後の社会連帯のあり方を考えるシンポジウム「神戸から地球へ」が共に生きるために」が13日、神戸市中央区下山手通4の県公館であった。

賀川がキリスト教伝道を通じた社会活動をスタートさせて1世紀に当たるのを機に、グ

ローバル化で広がる経済・社会の格差解消を目指して、県とアジアポランティアセンターな

「阪神大震災のボランティア活動を避けるために被災者と接触を避ける傾向があった。自分で考えて行動して困っている人を発見し、被災者に寄り添って生きる力の支えになることが必要」と指摘。「賀川は災害支援を通して平和な社会をつくらうとしていた。我々もその精神に学ばなければならぬ」と話した。写真。また、貝原俊民・前

県知事の基調講演や、

「マグサイサイ賞」受賞者でタイ・バンコクのスラムで献身的な支

援活動を続けるプラテ  
イーブ・ウンソントム  
・秦さんらの討論も行

われ、約3000人の市民が熱心に耳を傾けた。  
【近藤諭】

